

### 台風 16 号被災地への復興募金お願い

マニラ首都圏を襲った台風による洪水で多数の死傷者や家を失った人々がいることは日本でも大きく報道されました。当会は日比 NGO ネットワークと協力し、緊急支援 3 万円を送りました。しかし復興にはまだまだ時間がかかる見通しです。安全な日常に戻るためのご支援をお願いします。



2009 年 10 月 25 日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933

E-mail: hands-ty@r07.itscom.net

<http://homepage3.nifty.com/hands/>

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

## 都市医療とへき地医療の違い

### ー現地 NGO(CMIP、PIHS)と公立病院の連携から考えるー

8 月 17～21 日、ゼネラルサントス公立病院(以下、公立病院)において、日本橋形成外科クリニックの森岡大地医師にご協力をいただき、口唇裂ややけど痕の形成外科治療を行いました。対象者は当会のパートナー団体 CMIP が活動する地域のビラーン民族、同じく PIHS が活動する地域の住民、そしてゼネラルサントス市のソーシャルワーカー(社会福祉士)の呼びかけに集まった市内の患者です。

結果、1 才 10 ヶ月から 14 才までの 12 名に口唇裂手術(11 名)と上皮母斑(皮膚の腫瘍、1 名)手術を行うことができました。ゼネラルサントス市内には総合病院、個人病院ともいくつかありますが、形成外科医は 1 人しかおらず、また費用も高いため、このような機会を待ち望んでいたそうです。



手術着を着たセドリック君(1 才 10 ヶ月)と祖母のセナイダさん(50 才)。母はセドリック君を出産後、家出したため、父方の祖母であるセナイダさんが面倒をみている。父は大卒だが仕事が見つからず、トライシクルの運転手をしながら求職中。手術は成功したが、2 週間後の抜糸時に大泣きしてしまい、術後の写真は撮れなかった。

っていなかったことを知りました。

また、そもそも口唇裂をもって生まれるのは、胎児の時の栄養不良が大きな要因です。妊産婦が食に関する正しい知識を持ち、必要な栄養を摂取できることの重要性をあらためて感じました。

公立病院長のアレハンドロ医師によるとこの病院はベッド数 100 床。しかし入院患者は常時 300 名とのこと。そのとおり、廊下や待合室まで仮設ベッドが並び、付添の人、見舞いの人でごったがえしていました。このようにお金さえあれば医療を受けられる都市に暮らすことと、医療不在のへき地に暮らすことは状況が異なり、へき地では自分と家族の身は自分で守る心構えが必要です。

**口唇裂は命にかかわる病気ではありません。**そのためどうしても治療が後回しになりがちです。しかし当事者である学齢期の患児や父母に聞くと、学校でかわれて中退したり、そもそも学校に通ってなかったりするそうです。(P5 参照)

「1 人でも多くの子どもの教育の機会を」と願う当会はこの話を聞いて、今回の治療は先住民族の子どもだけでなく、都市在住の子どもも対象としたことは間違

当会の医療支援の方針は①予防のための保健・医療セミナーの開催②村の保健ボランティアの育成③地域型健康保健組合の育成(グリーンカード制度)です。この推進のために CMIP、PIHS のスタッフたちが山村、漁村を回り、人々の話に耳を傾け、アドバイスを行っています。またこのように公立病院と連携して治療を行ったり、住民セミナーへの医師派遣を要請することもあります。僻地で医療を行う現地 NGO をこれからも応援ください。